

## CONTENTS

地域会だより ..... 1

連載：防火建築帯・防災建築街区を巡って ③ ..... 2  
土屋 和男建築家と行政等とのコラボレーション ..... 4  
西村 和哉BM/BI/IM の三分法から考える BIM  
— 電脳設計論壇 #07 村井 一 氏 ..... 5  
高井 宏之

全国卒業設計コンクール結果速報 ..... 6

自作自演 245 ..... 7  
黒川 喜洋彦・塩田 哲也保存情報 第 236 回  
データ発掘：名古屋大学東山キャンパスの  
グリーンベルトと周辺建物群 ..... 8  
谷口 元編集後記 ..... 8  
川合克己・大橋 康孝TOPIC  
東海機構プラットフォーム設計者が決定 ..... 9  
恒川 和久

## 地域会だより 今後の予定

■静岡地域会  
・ 8/5 静岡地域会役員会の開催 (WEB 同時開催)■愛知地域会  
・ 8/6 第 3 回役員会 (WEB 併用)■岐阜地域会  
・ 8/19 第 4 回役員会  
18:00 ~ 20:00 ZOOM 役員会  
議題：JIA の窓 2 について最終協議■三重地域会  
・ 8/6 第 3 回役員会  
第 2 回例会、会員研修：建材研修会  
三重県総合文化センター ※ZOOM 併用

## お知らせ

2021 年度建築家大会は沖縄で開催予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、2022 年度建築家大会は沖縄で開催されることが決まりました。東海支部では、2022 年度に開催する予定で準備を進めておりましたが、延期となりました。

## Bulletin Board

## イベント

## 第 18 回 とよはし都市型アートイベント Sebone (セボネ)

昨年中止に追い込まれたものの、今回で 18 回目をむかえる豊橋「水上ビル」界隈でのアートイベント、2 年ぶりの開催。テーマは、「ただいま」。

## お店をつくらう！～小さなまちづくりプロジェクト～

「建築家+」VOL.02 にも掲載！豊橋まちなかの小学生向け建築ワークショップ。Sebone 連携企画として、こちらは 15 回目の開催。小学校での授業や工作サポートは完了。JIA 愛知・事業委員会では運営や会場づくり、「JIA こどもけんちくか賞」の審査・講評・表彰などに関わって来ました。【愛知地域会 後援イベント】

## ■とよはし都市型アートイベント Sebone (セボネ)：

<http://seboneart.com/wp/>

## ■開 催：2021 年 9 月 4 日 (土)、5 日 (日)

※3 日 (金) は前夜イベント

## ■場 所：豊橋駅前「水上ビル」、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

## ■主 催：Sebone 実行委員会

## ■後 援：JIA 東海支部愛知地域会

■C P D：会場設営・撤収から表彰式の運営サポート、  
当日ワークショップのお手伝いいただける方は、  
各段階で CPD2 ~ 4 単位の取得が可能 (申請中)。  
対象期間は、8/31 ~ 9/5。

詳しくは、事務局宛てにメールにてお問合せください。

## 2021 年度日本建築家協会 JIA 新人賞募集中！

■第 1 次審査の受付期間：2021 年 8 月 27 日 (金) 必着

■応募方法、詳しくは、JIA ホームページをご覧ください。

<http://www.jia.or.jp/>

## 日本建築家協会優秀建築選 2021 作品募集中！

■締切：2021 年 9 月 3 日 (金) 17:00 迄《登録は全て Web から》

<http://www.jia.or.jp/news/detail.html?id=1314>

## 表紙 M公民館

団地内にあるM公民館の老朽化による建替え計画。現在、地域のクラブ活動や会合、お祭りイベント等に使用され、広報の場、住民同士の語らいの場としても親しまれています。

外部の既存樹木の連続性を生かし、一般流通材サイズの木材を組み合わせ、地域の東農ヒノキ材で建物を構成する。敷地の使われ方、建物の用途を考え、耐力壁に頼らない木質ラーメン (囲柱) による、広く連続した開口・大空間を提案中です。

内田 実成 (JIA岐阜)  
内田建築設計事務所

# 防火建築帯・ 防災建築街区を巡って

## 3



## 建築と道路のあいだ

### 沼津の「有階アーケード」

沼津本通防火建築帯は、数ある防火建築帯の中でもとりわけ先駆的名作として関係者の間で知られている。1953-54(昭和28-29)年につくられ、設計は建設工学研究会。この中心メンバーは東京大学助教授であった池辺陽、後に日本不燃建築研究所を設立する今泉善一、構造設計の巨匠となる坪井善勝らであった。完成後に発表された今泉の論文によれば、この防火建築帯は「有階アーケード」として特筆され、現在の商店街入口にも「アーケード名店街」と大きな看板がある。ここでいう「アーケード」は道路上を全て覆う全蓋式のものではなく、2階以上を片持梁で支え、1階の車道側をピロティにして歩道として使うものである。軒高を揃え、2階の窓に最大限ガラスを入れたファサードが一直線に延びる様は、まだ敗戦の記憶が残る街にすがすがしい新しさをもたらした。

「有階アーケード」が実現する経緯を『戦災復興誌』が伝えている。戦災で甚大な被害を受けた沼津は、戦災復興計画で本通の道路幅を既存の12.5mから20m

にすると指定した。既存道路の両側を3.75mずつ広げるわけである。拡幅には当然、両側の建築物を立ち退かせねばならない。これに対して、まず既存商店街から20mでは広すぎると反対の声が上がった。さらに、道の東側に1棟、RC造の百貨店があった。戦後間もない頃、RC造の建築物はきわめて貴重であった。そこで道路拡幅にあたり、この百貨店の1階部分の道路側3.75mをピロティとして、これを歩道分とすることにした。しかし、計画道路上にこの建物が位置していることは変わらない。

### 最新の制度で実現

興味深いのは次の件である。関係者で話し合いをしているとき、元台湾に居住した人が、「台湾では日射をさけるため道路の歩道上に建物が出来ている」と言ったそうだ。沼津でもこれに倣って、1階の一部を歩道として2階以上をその上に被せる。百貨店のピロティと同じ3.75mを道路両側のすべての建物に通し、歩道とみなすというわけである。

現在の通念から考えると、これは道路

上に建築物を計画していることになり、ありえない。そのありえないことを実現するために、建設省と交渉し、当該地区を防火地区に指定し、共同建築による防火建築帯を建設することのほか、美観地区の指定、建築協定の締結を行うとともに、公共歩廊通路条例を定めて都市計画道路の幅員変更が認められた。つまり、沼津の防火建築帯は、都市不燃化だけにとどまらず、近代建築では前例のない美観地区指定、建築基準法施行(1950(昭和25)年)間もなくの建築協定等、最新の制度によって実現したのであった。これらによって、表通りには電柱がなく、看板等にもルールが設けられ、建築物の構造、意匠等も統一が計られた。

現在でも、都市計画道路は車道部分のみであり、歩道部分は市の普通財産として管理し、その上部に張り出した2階以上の部分は、建築物所有者に貸与するかたちとなっているという。商店街の両端から続く道路は幅員20mの都市計画道路であり、防火建築帯の箇所だけが特殊な扱いとなっている。



沼津本通 キャンティレバーが続く街並みは鮮烈だった  
(『燃えない都市へのあゆみ』静岡県都市不燃化促進会連合会、1959より転載)



沼津本通 現在も入口に「アーケード名店街」



沼津本通 「有階アーケード」の歩道



静岡呉服町  
余裕のある歩道を活用して最近パークレットが設けられた



静岡紺屋町  
歩道が広がり地下街への入口がある



清水銀座  
キャンティレバーの張り出しの直下に境界がある

## 静岡と清水の壁面後退

沼津本通の場合、官民の境界はとりわけ特殊であるが、道路と建物の関係は、他の都市でもいろいろな例がある。

静岡の呉服町防火建築帯（1956-58（昭和31-33）年）では、境界は歩道上にあり、建物が2m後退していることは4月号で述べた。両側4.5mの歩道のうち2mずつは民地ということになる。静岡ではこの両側2mを含めると15mの道路幅があるが、車道は一方通行の6mである。ここでは拡幅はされず、既に1927（昭和2）年からの都市計画で、国道1号線がそれまでの旧東海道（呉服町通り）からバイパス（昭和通り）へと付け替えられ、呉服町通りは自動車幹線道路ではなくなっていた。このために呉服町通りは、

ゆったりとした歩道幅で歩行者に優しく、広い車道が両側を分断することなく沿道の一体性が維持された。

静岡では、続く紺屋町防災建築街区（1964-72（昭和39-47）年）でも壁面後退2mが踏襲されている。さらに紺屋町では地階があるが、地下通路は両側に4.8mの有効幅があり、うち1mは地上よりもさらに店舗入口が後退している。

また、清水の清水銀座防災建築街区（1968-69（昭和43-44）年）では、歩道上に上階が片持梁で張り出している。こちらは沼津より時代が下るだけに、道路側に柱のないダイナミックな表現となっている。官民の境界は静岡に準じており、1階が一律に2.7mセットバックして、ここが歩道として提供されている。

## 街に開かれた人の動き

ここでは静岡県内の例を見てきたが、実はこの時期の共同建築には道路と建築の境界が相互に浸透している例がしばしば見られる。共同建築の建設を機に、商店街が文字通り一体となって、自らの土地を公共的な使用に提供しているのである。

この時期につくられた共同建築には、しばしば「横のデパート」という表現が見られる。縦に階を積んだデパートに対して、横に続く商店街を言ったものだが、この言い方に倣えば、歩道はまさに売り場をつなぐ通路で、商店にとっては不可欠な空間である。自分たちの場所だからこそ、商店街は協力して街路の整備を行った。ここが高層ビルの足元の公開空地とは異なる。デパートや後の時代のショッピングモールと違うのは、買い物客が店から店へ移動する様子が街に開かれていることである。人の動きが街の賑わいとして見えること、これこそが、商店街の魅力であり、街に対する景観的貢献であろう。

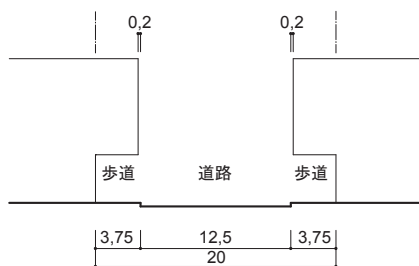
注：文中の道路幅、通路幅は場所によって若干の変動がある。

主要参考文献：

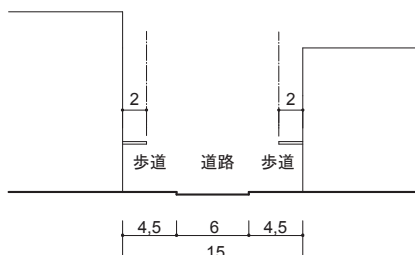
今泉善一「沼津市本通防火帯建設について」『建築雑誌』日本建築学会、1955.8

建設省『戦災復興誌』第6,8,9巻、都市計画協会、1958-60

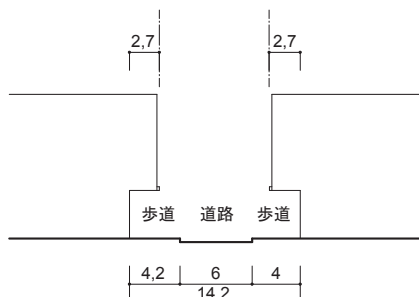
『日本の都市再開発史』全国市街地再開発協会、1991



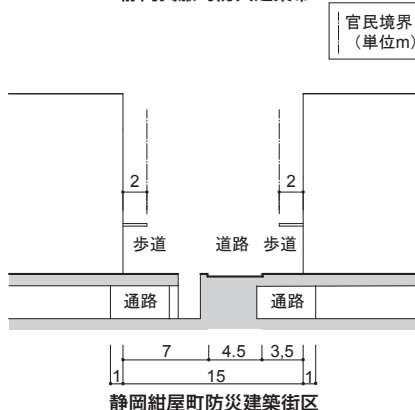
沼津本通防火建築帯



静岡呉服町防火建築帯



清水銀座防災建築街区



静岡紺屋町防災建築街区

建築と道路との断面関係 境界はそれぞれ異なるがいずれも歩道が広い

土屋 和男  
常葉大学造形学部造形学科 教授



# 「建築家と行政等とのコラボレーション」

<日本建築家協会 北海道支部・東海支部・四国支部 連絡報告会>

5月22日(土)午後、三支部連絡報告会がリモートにて開催されました。

## ■連絡報告会内容

### ①東海支部から

#### 【JIA 大学「建築家の仕事」

大学での建築教育として】

発表者：川口亜稀子氏

大学3年生を対象に15コマの授業にてJIA会員の取組む仕事内容や抱負、社会との関わりを多角的に紹介。

#### 【愛知地域会行政WGとして】

発表者：吉元学氏 / 黒野有一郎氏

行政への働きかけとパイプ作り。/ 社会への「建築家」の発信：建築家プラス(小冊子)について紹介。

### ②北海道支部から

#### 【きた住まいのヴィレッジ】

発表者：照井康穂氏

JIA北海道支部による行政との協働による地域住宅づくりの取り組み。

### ③四国支部から

#### 【船戸定住団地と土佐派の家】

発表者：細木茂

東津野村(現津野町)より委託された公営住宅団地の「土佐派の家委員会」の取り組み。

### ④質疑とフリーディスカッション

三支部共同で行う今回の会合は、コロナ禍が続くオンライン化が進む中で可能となりました。今回の企画は、全国会議である住宅等連携会議の前身WGにて北海道・東海両支部の取り組みについて学習会を開き、その後四国支部より両支部の取り組みはその先に発展する好事例であると感じられ広く情報の共有をしたいとの要望から始まりました。発表では、東海支部からは建築家の多種・多様な活躍の場と大学生の人生観・価値観にも役立つ報告をされ、また公共工事の設計環境づくり等行政とのパイプ作り、社会への「建築家」の発信について目標を語られました。北海道支部からは宅地の不良債権を活用した行政の「支援・アドバイザー業務」としての関係の上で、作品より建築家が地域に出て行く試みについての報告、また四国の事例は地方独自の個性溢れる、若い会員や四国以外の方も再認識することを望まれる活動として挙げられました。

今回の三支部での企画を進めるにあたり、主催のJIA四国支部(笹木篤氏)よりその想いを載せております。

『まず多支部共同開催にあたっては、本来ならば時間と段取りが必要でなかなか実現は難しく考えられましたが、現在のオンライン化が広まり複数の支部の交流がより容易となりました。今回の試みはまだ試行錯誤ではありますが、今後更に発展した形で各支部間の交流と情報共有が進んでいくための布石になればと考えます。今後の広域組織づくりにとって、多極型ネットワークをいかにうまく活用していくのが重要であります。また敷居を低くして情報があまり行き届かない会員や若い会員の方が参加しやすくするためでもあり、更にはJIA以外、行政の方も是非参加していただきたいと考えます。』

今回のテーマについては、建築家と行政の関係については大変重い課題で長い歴史があると思います。これまでは特定の建築家や行政体の関係の下で行われた特殊プロジェクトの例はありましたが、両支部の事例は実効的で持続可能なプログラムであると評します。故に更なる展開が期待され、広く共有する機会を作りたいと考えました。また今回の事例から建築家は単なる設計技術者ではなく、多面的な職能を有する専門家であることも再認識され、このような職能を活かせる社会との関係性を築ければと期待しました。それは建築家の未来像を暗示しているように感じ、先ずそのことを自覚する必要があると考えます。気づき、自分を高める努力をするきっかけを作ることが第一の目的であり、つぎの段階で「行動(外部化)」し、いろいろなところの反応を見ることが重要であります。地域事情によって様々で方法論は一様ではなく、慎重に検討が必要であり時間が有することとも考えます。』

感想としては、今回の会を参考にして広がった企画等の各支部からの報告や、各支部が発表した内容に進展があった場合の状況報告など、引き続き報告会ができればと思います。また地域会内部の委員会からは、通常委員会内で企画している活動の参加者募集についてもリモート企画なら他支部へ活動の参加者募集をかけて常に支部関係なく交流できるのもメリットではないか(実際会員数も減り、参



質疑とフリーディスカッション



北海道支部報告



四国支部報告

加者もコアメンバーになってきて増員したい。)との意見もありました。

また「質疑とフリーディスカッション」では、会員が画面越しではあるが顔と名前を認識することができ、対面形式より身近に感じられました。質疑もチャットを読み上げるだけでなく、直接参加者から質疑回答し情報交換できたことで、遠方間で交流が深められた点は実りのある会と実感しました。

参加者は、合計53名(東海23名/北海道5名/四国17名/関東甲信越2名/北陸2名/中国2名/九州2名)と多支部から参加いただき、全国に興味を持っている会員がいることを前向きに捉え、広報にも工夫していきたいと思っております。

今回は内輪な情報交換の意味合いが強かったのですが、整理をして次回は行政の参加も促せればと思います。先に挙げた住宅等連携会議では、各支部から行政との関わりから発展した企画の情報を集め、今後も支部という壁を越えて共有し、水平方向の繋がりが進んで行くことを期待し、この繋がりを生かしてどのように展開していくのか。検討して昇華できればと考えます。



笹木 篤 (JIA 四国)

(株)建築・都市設計インタースタディオ



西村 和哉 (JIA 愛知)

h + de-sign / architect

# BM/BI/IM の三分法から考える BIM

## 一 電脳設計論壇 #07 村井 一 氏



村井 一 氏

電脳設計論壇も第7回。2021年5月21日、村井一建築設計代表／東京大学生産技術研究所 特任研究員の村井一（むらい・ひとし）氏をお招きし開催した。

村井氏は、三重大学（富岡義人研究室）で、設計活動とともに建築設計過程で既存部品の規格の概念がどう変容するかの理論を研究した。東京大学大学院（野城智也研究室）では、建築構法の諸要素の成り立ちを、構成材だけでなく取り巻く人や組織の技術知識を含めて研究した。また学生の頃には Web プログラミングを独学したが、いま BIM を無理なく扱っているのはここからきているのではないかとのこと。そして、12 年間日本設計で各種ツールも駆使し多くのプロジェクトの意匠設計に携わり、2019 年より現職を勤めている。

さて、講演で村井氏から提供された BIM に関する話題は次の通りであった。

### 1) 建築設計ツールの関係<図1>

建築設計プロセスでは、抽象から具象へと段階的にゴールに向かっていくが、その時のツールが Drawing、2D-CAD、3D-CAD、BIM、VPL と多様化。教育時のツールとして何がふさわしいかが時代で異なり、混沌とした状態になっている。このツールの相互関係の中で、BIM や VPL の特性を理解するとわかりやすい。

### 2) RC-90「つなぐ BIM 研究会」

2015 年から野城研究室が主催し、設計事務所・ゼネコン・メーカー・ソフトベンダーなどが自由に意見を交わしており、村井氏も日本設計時代から参加している。成果の概要は野城研究室 HP で公開され、10 のキーワードが抽出されている。

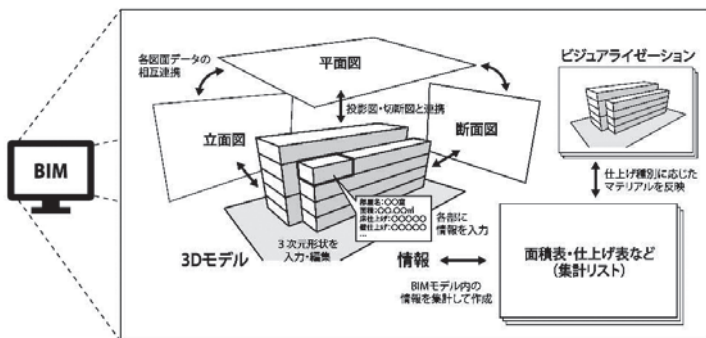


図1 BIMを構成する情報(出展)日本建築学会編:BIMのかたち—Society5.0へつながる建築知

### 3) BIM の BM/BI/IM 三分法<図2>

BM (Building Modeling) とは、形状を仮想空間上に構築する行為。BI (Building Information) とは、形状の属性情報。IM (Information Modeling) とは、設計プロセスの時間軸上で属性情報の集計や関係づけ、ルール設定を行うことである。この分解により、建築設計における情報の扱い方を明確に捉えることができる。

これら3要素について、自作の教育プログラムを例に用いた解説が加えられた。BM については、Rhino を用いた S 造 3 階建のモデリング演習が紹介され、メカニズムや構成としての建築を理解することの重要性が強調された。BI については、Twinmotion を用いた建築ビジュアライゼーション演習が紹介され、マテリアルや光源の設定が属性情報管理の一例として挙げられた。そして最後に、IM (Information Modeling) については、Grasshopper を用いた光環境シミュレーションが紹介され、解析に必要な形状・属性情報を繋ぎ合わせる所作を情報のモデリング行為として実例を交えながら解説された。

一言で BIM と言っても、これらの側面のどこの話をしているかがわかりにくいのが現状である。この三分法は建築情報の取り扱いの議論、方針決定、学習・教育などの場面で重要になる。

### 4) BIM 活用の意味と展開

BIM ツールを使うということは、これまで暗黙知であった図面上の技術知識・建築情報を、デジタルに投影するために形式知に置き換えるが必要になる。また、BIM は何段階か捉え方があり、TK

(Technical Knowledge) との関連付け、周辺の IP (Information Platform) の拡張的な活用も考えられる。

以上の講演後、研修委員会メンバーの山上健一さんから、村井さんは実務に近い立場から少し先を行った、かつ実務者が日頃意識できていない取り組みをしているとのコメントがあった。

ところで、私はこの講演会シリーズ、研修委員会の副委員長として毎回聴講している。そもそもコンピューターが大の苦手がこの手の話は全くの門外漢。7回聴講してもまだ入門にはほど遠い状態だ。ただ、各講師の話の聞きかたで気づいたのは、本論壇の登壇者や実際実務で活用されている方々は、コンピューターがそもそも好きで得意であることに加え、高いハードルである新ツールに取り組むに至った専門的出自や思いがあることだ。例えば、今回の村井氏は、学生時代は建築デザインとともに建築構法・部品化・生産システム研究の中で育ち、そこで培われた思考回路が今の取り組みに生きていると感じた。また、設計事務所経営に対する将来的な懸念や差別化が、取り組みの原動力になっている方も少なくないと感じる。このような多様な人材が流入するコンピューショナル・デザインの世界は、今後とも大いなる展開と可能性が期待される。



高井 宏之 (JIA 愛知) 名城大学

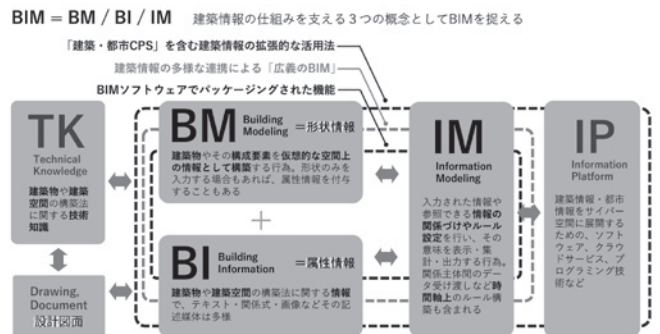


図2 BIMを構成する3つの要素とその拡がり(作成:村井一)



## カール・ミレスのこと そして その出会い



Orpheus Fountain (1937) Bronze, Carl Milles, Cranbrook Academy of Art, Michigan

Carl Milles (1875-1955)については、箱根の森美術館の「人とペガサス」の彫刻家ということでご存じの方もいるでしょうし、あの空を舞うような彫刻か！と思いつける人もいます。上の写真のクランブルックでの出会いが私にとっては初めてでした。ここでの出会いほど強い印象を受けたことはそれまでありませんでした。エリエル・サー

リネンの建築群とそこに散りばめられた美術学校だけでも30カ所ほどのミレスの彫刻がつくり出す空間に触れてはじめて物と物の間に醸成される景色の力強さを教えられました。私にとって「建築のはじまり」のもう一つのものだったと思い出します。建築への入り口は人それぞれでしょうけれど、ある時間のある瞬間がその人のその後の世

界を別のものに変化させることがあるのでしょうか。ここは1932年に設置建築されていますから、丁度ヨーロッパでバウハウスが閉校されるのと呼応するようにアメリカ版バウハウスと言われているのも頷けます。置かれた彫刻が建築と掛け合い緊張感をつりだし、そしてそんな景色がずっとつづいて80年間、そしてこれからもつづいていく・・・なんと恵まれた彫刻家だと思えます。21世紀、激しく変化し一見すべてのものが変化の時間を早め自分が取り残されているように感じられる現在、変化しないものがあることそれが大切だと感じているこの頃です。

黒川 喜彦 (JIA 愛知)  
株黒川建築事務所



## 唐津訪問

在宅勤務が増え、自宅の身の回りのものが目に付くようになった。例えば食器。子育てする間、食器なんてシンプルで食洗器に入れられて割れなければいいと思っていたから、気づけば白い磁器やらデュラレックスやらその類の頑丈な器で年季が入ったものばかりになっていたのだ。

それではじめは瀬戸や常滑を回遊していたのだが、京都のギャラリーで唐津焼のとある作家の作品を見た。素朴で繊細でもあるところが好みであったし、聞けば焼成温度が高く普通の陶器より壊れにくいという。我が家向けであった。早速器を2客手に入れたが、それを愛でるうちに産地に行きたく

なったので、今年の5月に妻、末っ子と共に唐津に向かいその窯元を訪れた。

唐津は山の緑が濃く、遠くまで空と海が青々とした土地であった。

2泊3日の間、旅館の女将が薦めてくれた作家含め2か所の窯元にお邪魔したが、いずれの作家も気さくに迎えてくれ、それぞれ小一時間ばかり作家活動についてお話を聞き、工房も案内していただくことになった。

私も建築設計を生業としているので、相手に作家としての共通点も見いだしながら興味深く聞けたし、その意識の高さも情熱もしかと受け取ったが、同時に自然環境豊かな創作環境の素晴らしさや、そこで繰り広げられている自

然共生の生活スタイル、それが背景になっているであろう彼らの落ち着いた佇まいのほうにも心を動かされた。

旅行の際にその地の伝統工芸に触れるのは楽しみの一つだが、出来ればその作家を訪問することをお勧めしたい。旅の思い出になるばかりでなく、生活工芸についての理解や手に入れた作品への愛情が深まるだろう。

塩田 哲也 (JIA 愛知)  
株日建設



当キャンパスが愛知県の施策により、土地区画整理組合から無償寄附されたのは戦時下の1942年のことである。開学記念に配られた絵葉書には湾曲したグリーンベルトが描かれているが、1943年の計画図では東の講堂から西方向に直線状に伸び、周辺に建物が整然と並べられている。現存する建物群で最も古いのは1955年工学部2号館であり以降順次建設された。近年かなり老朽化が進んでいたが、既存建物の建て替えを原則禁止した政策により、これら建物群は外郭フレームによる耐震補強がなされて現存しており、グリーン

ベルト周辺の景観を形成している。1960年豊田講堂、1964年旧古川図書館が出来、象徴性が高まったが、1981年の新図書館建設で、街に開かれた景色が塞がれて中庭のようになり、その変容を嘆く関係者も多い。西方に旅立つ若き榎文彦氏も眺めたであろう景色の先は、Google Earthの画面をよく見ると、どうも関ヶ原を目指しているようだ。



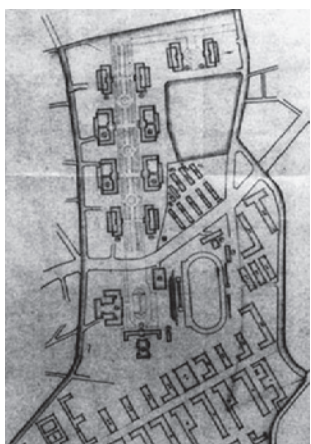
【概要】  
住 所：名古屋市千種区不老町  
建築年代：計画1943年頃  
戦中に建設開始、中断、戦後再開



谷口 元 (JIA 愛知)



開学記念の絵葉書



名古屋帝国大学全体計画図  
(部分：1943年)：西を上に掲載



工学部2号館  
(築：1955年、改修2002年)



Google Earthによる眺望の分析  
(手前：豊田講堂 左手：旧古川図書館 前方：新図書館)

## 編集後記

●私にとって、今月号の記事の中で一番インパクトのあったのは、東海機構プラットフォーム/プロボザール最優秀案の一枚の画像でした。50数年前にグリーンベルトに憧れて名古屋大学建築科受験、見事不合格。この記事に呼応するが如く、名古屋大学名誉教授谷口氏の「名古屋大学東山キャンパスのグリーンベルトと周辺建物群」の内容が素晴らしい面白かった。1981年に新図書館が建設され中庭のようになってしまったとは、初めて知りました。小堀氏設計の素晴らしい施設が、関ヶ原を遠望出来る雄大なスケールの中に有ればと惜まれる次第です。(川合克己)

●今月号で土屋和夫先生の防火建築帯、防災建築街区の連載が3回目となりました。今まで静岡市役所から南西に延びる青葉通りはイベント広場としての認識しかなかったのが、実は大火を防ぐ防火帯だという事実を知り、静岡のまちなみを違う視点で見ることができるようになりました。また、静岡の防災建築街区の理解が深まることで、その地区の仕事に携わる時に取り組み方が変わってくると確信しています。さらには、他の都市に対しても興味を持ち、その再活用・再生事業に関して、注目している自分があります。あと残り3回も楽しみにしています。

東海機構プラットフォームのプロポーザルは非常に興味深く2次の提案書を見ながらプレゼン・ヒアリングの動画を拝聴させていただきました。今後の進捗についても ARCHITECT にて記事にされることを期待しています。

引き続きのコロナ渦で事業中止が続く中、皆

様の努力で卒業設計コンクールが再開されたことは、非常に嬉しいことです。このような明るい話題が少しずつ増え、情報発信をしていくことで良い方向に進んでいくことを願っております。(大橋 康孝)

### ARCHITECT

第395号

発行日 2021.8.1 (毎月1回発行)

定 価 380円 (税込み)

発行責任者 水野豊秋

編集責任者 川本直義

編 集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブリテン委員会  
株式会社イヅミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564) 21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/

# 東海機構プラットフォーム設計者が決定



東海機構プラットフォーム／  
プロポーザル最優秀案  
提供：小堀哲夫建築設計事務所

名古屋大学東山キャンパスに整備される「東海国立大学機構（東山）プラットフォーム」新営事業の設計者選定プロポーザルが行われ、小堀哲夫建築設計事務所が設計者に選ばれました。

昨年4月、名古屋大学は岐阜大学と法人統合し「国立大学法人東海国立大学機構」が設立されました。このプラットフォーム棟は、機構の設立を象徴する建物として、国際通用性のある質の高い教育（アカデミック・セントラル）等を具現化するために整備を行うものです。建設地は、名古屋

大学東山キャンパスにおいて、四谷通りを挟んで豊田講堂と対峙し、地下鉄駅や中央図書館と直結するキャンパス中心の重要なオープンスペースに位置します。

優れた設計提案を幅広く求めるため、外部から古谷誠章先生、佐々木陸朗先生を審査員にお招きするとともに、審査の基準を見直し透明性や公開性をより重視した形で公募型プロポーザルを行いました。

一次審査を通過し、二次審査に進んだ5者（槇総合計画事務所、伊東豊雄、

SANAA+妹島和世、千葉学、小堀哲夫）は、いずれも日本を代表する建築家であり、審査にあたった私たちも大変緊張する中、ヒアリングが実施されました。審査の講評とともに、5者のプレゼン・ヒアリングの動画も公開しています。

<http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/07thers-platform/index.html>



恒川 和久 (JIA 愛知)

名古屋大学 施設・環境計画推進室

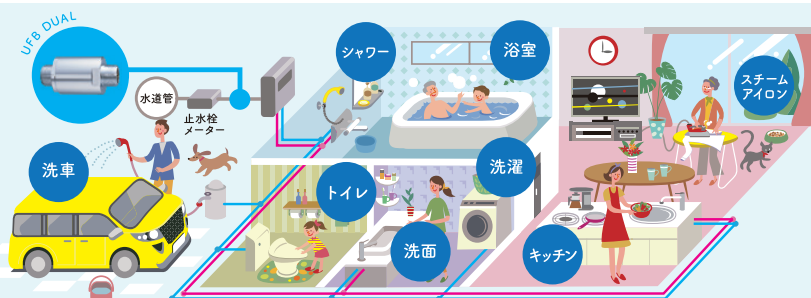
## 水道の元栓に設置するだけで おうちまるごと、ウルトラファインバブル水！

UFB DUAL™  
ウルトラファインバブル デュアル

UFB DUAL™を水道の元栓に設置するだけで、建物内全ての水道水がウルトラファインバブルに。

＼ウルトラファインバブルで暮らしが変わる！／

<p>洗浄効果</p> <p>家事がラク！</p>	<p>美容効果</p> <p>肌がつるつる！</p>	<p>酸化抑制効果</p> <p>鮮度が長持ち！</p>
---------------------------	----------------------------	------------------------------



- ✓ 簡単施工
- ✓ メンテナンス不要
- ✓ すべての住宅に設置可
- ✓ 水量・水圧が落ちない
- ✓ ランニングコスト0  
(カートリッジ・電気代不要)

日本最大級の展示会に選出され、さまざまな賞を受賞。  
今、注目されている製品です。



世界初 特許技術により、日本で唯一の水道機器認証を取得したウルトラファインバブル生成ノズル

<p>特許取得</p>	<p>水道機器認証取得</p>	<p>飲用適水ファスト合格</p>	<p>スタートアップワールドカップ 大阪大会2020 優勝&amp;SUNTORY賞 W受賞！</p>
-------------	-----------------	-------------------	---

お客様へのご提案の商材として  
他社との差別化のツールとして



御社の事業にお役立てください！

UFB DUAL™ 正規代理店

当社は名古屋エリアの正規代理店です。販売・施工は全国対応！お気軽にお問い合わせください。

詳しくはこちら ▶▶▶



TEL.052-914-0300

<http://sign-saikosha.com/ufb/>

[営業時間] 9:00-18:00 (土日祝除く)

